

こうかい ひこうかい べつ
公開・非公開の別

■ 公開 部分公開
 非公開

第5回浜松市外国人市民共生審議会会議録

- 開催日時** 令和3年6月25日(金) 午前10時00分から正午まで
- 開催場所** オンライン会議システム ZOOM
- 出席状況**

委員 シム キュマン (韓国)
杉野 アドリアーナ (ブラジル)
妹尾 圭持 (知識経験者)
孫 玉傑 (中国)
丹野 清人 (学識経験者)
バンバン ハリアント (インドネシア)
ファム トウイ フォン (ベトナム)
レニ ブラエニ (インドネシア)

事務局 国際課 課長 鈴木 三男
国際課 課長補佐 松井 由和
国際課 主幹 古橋 広樹
国際課 影山 侑里奈
- 傍聴者** 0人 (一般: 0人、記者: 0人)
- 議事内容** (1) 【講義】外国人の青少年のキャリア支援について
(公財) 浜松国際交流協会 内山 夕輝
(2) 意見交換
- 会議録作成者** 国際課 影山 侑里奈
- 記録の方法** 発言者の要点記録
録音の有無 有 無

8 会議記録

(1) 開会・挨拶

《国際課長挨拶》

(2) 講義

《外国人青少年のキャリア支援について講義》

(丹野委員長)

・国籍ごとに国民性が異なるため、学習指導の仕方をそれぞれ調整する必要があるかと思う。このことについて、講師はどのように考えているか。

((公財) 浜松国際交流協会 内山氏)

・日本語教室の学習者を見ていると、学習スタイルが国籍によって異なる。日本語教室を実施する上で、学習者が多いと学習者個人のスタイルに合わせるのが難しいが、学習者個人に寄り添わないと日本語能力が伸びない。これはジレンマになっている。

・近年、外国人市民の多国籍化が進んでいる。外国人市民共生審議会のような、多国籍な委員が集まる会議を通じて様々な意見をいただき、どのように実施していけばよいか考えていきたい。

(3) 意見交換

(アドリアーナ委員)

・2016年から在浜松ブラジル総領事館が、大学進学のための説明会を実施している。その説明会には大学や金融機関等が参加し、学費やローンについて相談できる。

・国によって大学進学の方法が異なるため、様々な国籍の人が参加できる相談会があると良い。また、子どもだけでなく保護者も参加できると、金銭面での計画が立てやすくなる。

・日本生まれの外国人市民が増え、高校を卒業する人が多くなった。次は大学進学をする人が増えていくと良いと思う。

(レニ委員)

・外国人市民が母国にいる子どもを日本に呼び寄せる場合、市はその情報を把握しているか。

・母国で成長してから日本に来る子どもたちが、どこで日本語を勉強したら良いのか分かる情報があると良い。コミュニティがあれば、コミュニティから情報を得られるかもしれないが、コミュニティのない国籍・地域だと情報を得るのが難しい。

(事務局松井)

・転入時の住民登録で、その人がどの世帯に入るのか分かるものの、外国人市民が子どもを呼び寄せたと即座に判断することまでは難しい。

・外国人市民が浜松市に転入する際に、「ウェルカムパック」という多言語冊子を配付しており、日本語教室の情報なども含めた、転入時に必要となる情報を提供している。

(アドリアーナ委員)

・NPO法人浜松NPO ネットワークセンターの Web サイト (N-Pocket) は、様々な情報がまとまっている。参考にすると良いと思う。

(シム委員)

・外国人夫婦の場合、幼稚園の入園手続き等の情報の入手が難しいと思う。外国人夫婦に対して、入園前に手続き方法が分かる仕組みがあると良いと思った。

(丹野委員長)

・新型コロナウイルス感染症対策で、大学の授業は Web で行われている。対面式の授業であれば、分からないことを周囲の学生に聞きながら受講できるが、Web の場合は一人で理解しないといけない。また、Web で授業が行われる関係で、授業の単位を取得するために、学生は多くのレポートを書かなければいけない。このような通常とは異なる授業についていくことができず、大学を辞めてしまう外国ルーツの学生が多い。

・入試で英語を活用した学生たちも、入学後、卒業するためには授業についていくことができる日本語力が必要になってくる。

(アドリアーナ委員)

・授業を行う先生も、コロナ禍での授業のやり方に慣れていない。先生も新しいやり方を勉強する必要があると思う。

・英語で行う授業があれば、外国にルーツを持つ学生だけでなく、英語を勉強する目的で日本人学生も受講すると思う。

(丹野委員長)

・自分の勤務する大学で、英語で行う授業を増やしたが、日本人学生はほとんど受講していない。今の大学生にとって、英語は大学受験までに使うものという意識が強いのだと思う。こうした意識を一度に変えるのは難しいが、今の中学生ぐらいの子どもたちが大きくなる頃には変わるかもしれない。

(レニ委員)

・以前は周りの人に分からないことを聞いたり、真似したり、助け合いながら勉強を進めることができた。Web で授業を行う場合は、周りの人に聞くことができず大変だと思う。

・インターネット社会になる前は、スーパーマーケットの掲示板にイベントのお知らせなどの情報が掲載されていた。インターネットには多くの情報があるが、自分から調べない情報は手に入れない。地域の生活空間に情報を掲示し、地域を巻き込んで情報発信すると良いと思う。

(丹野委員長)

・外国人市民だけに伝えるのではなく、地域住民全体に伝えることで、外国人市民が求める情報を地域住民も知ることができる。インターネットは、伝えたい相手以外の人には伝わりづらい。

(妹尾委員)

- ・外国人のための法律相談を行っているが、もっと積極的に情報発信するのが大事だと思った。

(バンバン委員)

- ・自治会や小学校などの地域の人々が集まり、お互いのことを知り合え、伝えたいことを伝えあえる場があると良いと思う。その中で、自分の歴史やストーリーを日本語と母語で発表し、お互いを理解するきっかけができると良い。

(孫委員)

- ・通訳付きで保護者も参加できる職場体験授業があるといいと思った。職場体験授業を通じて、様々な職業を知って視野が広がり、日本社会の理解や日本語の勉強意識が向上すると思う。また、日本人学生も同様に、英語を使った職業を知ることで、英語の勉強意識も向上すると思う。

(丹野委員長)

- ・大学に進学するイメージはあるが、その後働くイメージはないという子どもたちは多い。働くイメージを早い段階から持ってもらうことで、勉強へのモチベーションにつながれると思う。
- ・日本で生まれ育った外国にルーツを持つ子どもたちは、自分の意志で日本にいてわけではないので、なおさら勉強への動機づけをサポートしていかないといけないと思う。

(孫委員)

- ・日本に呼び寄せられた子どもたちは、なぜ日本で生活しなければいけないのかと疑問に思うことや、母国と比べてしまうことがあると思う。日本を好きになってから来日すれば、様々なことにチャレンジしようと思うかもしれない。
- ・企業で高度人材が求められているが、高度人材で外国語が得意な人でも、日本語が得意ではない人もいる。その一方で、日本人は日本語ができるが、外国語が得意ではない人もいる。どのようにバランスを取っていくのが大事だと思う。

(レニ委員)

- ・日本で生活する以上、日本語は重要だが、日本語が得意ではない外国人も、他の様々な言語ができることは胸を張って良いことだと思う。
- ・自分が授業を行っている専門学校の学生たちは、外国人が困っていることに対して真剣に考えて意見を出してくれる。コロナ禍が終われば、外国人市民は増えていくと考えられるので、多文化共生に関する講座をもっと増やし、学生たちのような前向きな考えが広がっていけば良いと思う。

(フォン委員)

- ・自分は家族と共に来日したが、学校への入学手続きは親が行った。進学に関する情報を子どもたちよりも、親にもらえると良いと思った。

・子どもの成績や、その成績で入れる高校の情報だけでなく、地域にどのような高校があるのかをもっと知ることができると良いと思う。

・現在、学校の面談でベトナム人保護者の通訳をしている。その中で、学校から保護者に対して「何か分からないことがあったら聞いてください」と言われることがあるが、保護者は分からないことが分からない状態にあると思う。市だけでなく、学校からも積極的に情報を提供してほしい。

・インターネットで、説明会等の情報を調べることができるが、ベトナム人でそういった説明会に参加する人は少ないと思う。学校から子どもに対してチラシを配れば、保護者も読んで知ることができると思う。

(妹尾委員)

・中学生の段階から大学進学を目指せるように、教育ローンや英語受験のできる学校、大学受験のメリット等について情報提供をすることが大事だと思った。

・親や先生、地域社会、学生同士など様々なところからそういった情報にアクセスでき、誰もが自然と知っている状況になるのが理想だと思う。

(孫委員)

・以前市では、外国にルーツを持つ子どもの作文教室も行っていたそうだが、作文は重要だと思う。日本語を話すことができる子どもであっても、書くことができるとは限らない。文章で表現する力は、高校入試や大学入試、大学の授業のレポート、卒業論文、仕事でも必要になってくる。小さい頃から話す力と同じように、書く力も訓練できると良い。

(丹野委員長)

・自分に置き換えて考えると、英語を読むことに対しては抵抗がないが、英語で論文を書くことに対しては大変だと感じてしまう。書く力は、読む力や話す力と別で訓練しないと身につかないし、仕事をする上で必要な力になってくる。

(事務局鈴木)

・教育委員会が行っている外国人子ども支援協議会に参加している。その会議には、小中学校や定時制高校の関係者も参加している。そういった学校側の声も取り入れながら、提言をまとめていくことができれば良いと思う。

(事務局松井)

・委員の皆さんから様々な意見をいただいた。情報提供の仕方の中で、課題がまだあると再認識した。外国人市民だけでなく、地域の日本人市民も巻き込んだ情報提供が効果的であると感じた。外国人市民だけでなく、その周りには地域の日本人市民と相互の交流が促進されるような情報提供ができるようになると良いと思った。

・また、外国にルーツを持つ子どもの勉強に対する動機づけも大事であると感じた。動機づけがされていないと、ただ勉強をやらされているだけに感じてしまう。子ども自身が、勉強することに対して納得し、いかに能動的に学ぶことができるかが肝となってくると思った。

(アドリアーナ委員)

・外国人市民は日本語が分からない人もいますので、情報は大事だと思う。自分はこのような会議の委員になっているので、多くの情報を持っている。委員の役割として、持っている情報をコミュニティに伝えていきたい。

9 事務局からの連絡事項

10 閉会